ぎょうだ 歴史系譜 212 行田の歴史再発見 15

幕末の動乱と忍藩

文政6年（1823）から忍藩主となった松平家は前藩主の阿部家と違い、「武門」に重きを置いた大名です。松平家の初代松平忠明は徳川家康の孫として生まれ、大坂の陣で活躍し、大坂や大和郡山、姫路といった西国の重要拠点の藩主を務めました。家臣団も役人中心だった阿部家に比べて、軍事部門中心の編成となっていました。一方で徳川家の一族から大名になったこともあり、老中など幕府の要職には就任しませんでした。その松平家の軍事力が幕末の動乱のなかで幕府に必要とされ、歴史の表舞台に登場することになりました。

天保13年（1842）、幕府は外国船の来航に備え、忍藩と川越藩に江戸湾の沿岸警備を命じました。忍藩の管轄は富津岬から房総半島の先端までで、現地の陣屋や遠見番所に藩士が派遣され、警備に当たりました。嘉永6年（1853）のペリー来航のときには、三浦半島の浦賀に上陸したため、陸上の警備は川越藩と彦根藩が、海上警備を忍藩と会津藩が担当しました。幕府はペリーの再来に備えて品川沖に人工島を築いて砲台を設置し、警備をそれまで江戸湾警備を担当していた各藩に割り当てました。台場とよばれるこの人工島のうち、三番台場の警備を忍藩が担当することになりました。

文久3年（1863）には将軍徳川家茂上洛のお礼と京都警備のため、藩主松平忠誠が京に上りました。元治元年（1864）に起きた天狗党の乱では水戸へ出兵し、後に天狗党の浪士120人を預かり忍城内に幽閉しました。慶応3年（1867）に徳川慶喜が大政奉還をすると松平忠誠は軍勢を連れて大坂に入りますが、鳥羽伏見の戦いで幕府軍が敗北すると、江戸へ戻りました。藩内では新政府・旧幕府のどちらにつくかで意見が分かれましたが、開城に決まり慶応4年（1868）3月11日に新政府軍が忍城に入城しました。以降は新政府軍に組み込まれ、北関東や南東北を転戦しました。

この戦いの最中、前藩主松平忠国が死去し、病気療養中だった藩主松平忠誠も明治2年6月にこの世を去りました。幕末の動乱に翻弄された二人の藩主の死は、忍藩主松平家の歴史が大きな転換を迎えたことを表しているかのようです。

（郷土博物館　鈴木紀三雄）

炮術形状図式
（安政４年　忍藩士の砲術の訓練を描いた絵巻物）

こぜにちゃんが行く！ with フラベえ

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。

忍城おもてなし甲冑隊

平成22年7月に結成された「忍城おもてなし甲冑隊」。行田を訪れる観光客に、よりいっそう行田の歴史に親しんでもらおうと、戦国時代、豊臣秀吉軍と対峙した成田家の勇猛果敢な武将たちをモデルにして結成されたんだ。

忍城址や郷土博物館を中心に、記念撮影や見応えのある演舞を披露し「おもてなし」をしているよ。今まで行った忍城址での記念撮影は約7,800回、演舞の披露は約150回というから、大活躍だね。

ぜひ、お友達や家族と一緒に甲冑隊に会いに来てくださいね。

今月の表紙

10月16日、（社）行田青年会議所主催の忍城「どすこい！」フェスティバルが開催されました。

忍城址に特設された土俵で、市内の小学4年生から6年生までのわんぱく力士が熱戦を繰り広げました。土俵際での攻防や体格差を感じさせない取組に、保護者や観客から大きな声援や拍手が送られていました。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。

■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。

PRINTED WITH SOY INK™ 環境にやさしい大豆油インキ
市報ぎょうだは再生紙を使用しています

■編集・発行／行田市総合政策部広報広聴課
〒361-8601 行田市本丸2番5号　TEL 556-1111　FAX 550-2116
ホームページ http://www.city.gyoda.lg.jp　携帯サイト http://www.city.gyoda.lg.jp/mobile/index.html